

# 状況記録写真

(様式6)

区分 自主

森林技術センター



照度10%区



照度20%区



照度30%区

平成10年度227ぬ草量調査プロット



対照区No.1



対照区No.5



対照区No.10

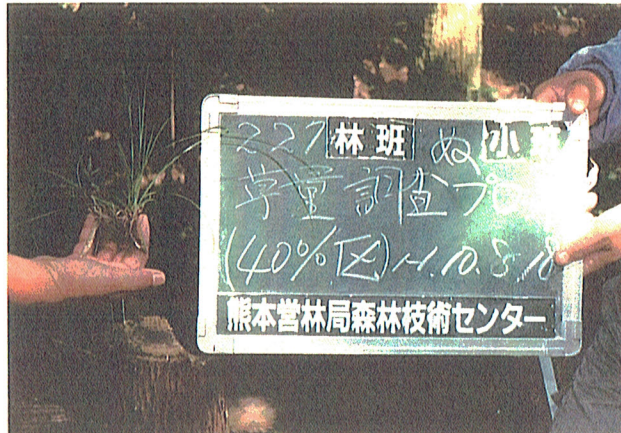
平成10年度227ぬ下層植生

# 状況記録写真

(様式6)

区分 自主

森林技術センター



侵入植生



照度40%区



対照区



平成10年度227ぬ試験地遠景

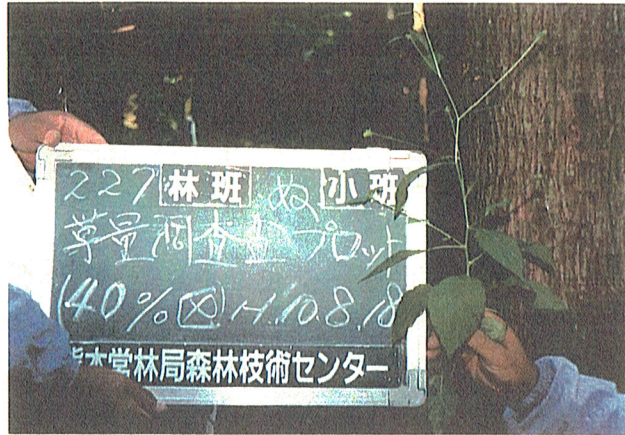
平成10年度227ぬ草量調査プロット

# 状況記録写真

(様式6)

区分	自主
----	----

森林技術センター



侵入植生



侵入植生

平成10年8月18日撮影

# 状況記録写真

(様式6)

区分	自主
----	----

森林技術センター



相対照度40%区



対照区



相対照度10%区



相対照度20%区

平成10年度227㍉草量調査実施後



相対照度30%区

技術開発実施報告・計画

九州森林管理局

課題	4 林分閉鎖時における生育段階の下層植生の変化と目的材生産の密度の解明	継続 (自主)	担当	指導普及課	開発 箇所	森林技術 センター 1 班
目的	照度不足により下層植生が消滅衰退に移行している林分について、照度を上げることによる下層植生の回復と林分密度との関連を解明する。(主として保育間伐作業)	開発期間		平成 7 年度 ~ 平成 16 年度		
年度別実施経過		11 年度 実施報告			12 年度 実施計画	
		実施内容	備考 (評価及び普及指導)			
<p>1 試験地設定 (平成 7 年度)</p> <p>(1) 場所 去川国有林 227 ぬ林小班 4.57 ha</p> <p>(2) 樹種, 樹齢 スギ 24 年生</p> <p>(3) プロット設定 10%, 20%, 30%, 40% 各 0.04 ha</p> <p>2 保育間伐 (平成 7 年度)</p> <p>3 調査事項</p> <p>(1) 樹高, 胸高径調査 (平成 7, 10 年度)</p> <p>(2) 下層植生調査 (平成 7, 10 年度)</p> <p>(3) 照度調査 (平成 7 年度) 各プロット, 対象区</p> <p>4 標示板設置 (平成 7 年度)</p>		<p>当年度実施計画なし</p>	<p>実行結果</p> <p>設定時に見られなかった下層植生及び侵入樹種を確認した。</p> <p>草本類) チヂミザサ, ヤブミョウガ, ツルコウジ, ヨメナ, ハナイカダ等</p> <p>木本類) ハナガガシ, アラカシ, リンボク, カナクギノキ, ヤマグル, ネズミモチ等</p> <p>これは、照度が上がり地床条件が良くなったことにより、新たに植生が侵入したものと考えられる。</p>		<p>当年度の実施計画なし</p>	

# 技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課題	3 林分閉鎖時における生育段階の下層植生の変化と目的材生産の密度の解明	継 新	統 規	担 当	森林技術 センター (業務第1係)	開発 箇所	楠見国有林 227ぬ林小班	
目的	照度不足による下層植生が消滅衰退に移行している林分について、照度を上げることによる下層植生の回復と密度管理との関連を解明する。(主として保育間伐作業)	開発期間		平成7年度～平成16年度				
年度別実施経過	12年度 実施報告			13年度 実施計画				
	実施内容	備 考 (評価及び普及指導)						
平成7年度 1 試験地設定 2 樹高・胸高径測定 3 下層植生調査 4 試験地の表示 5 照度調査  平成10年度 1 生長量調査 2 下層植生調査	実施事項なし			実 施 計 画	1, 生長量調査(樹高・胸高径) 2, 下層植生調査			
経費科目								
		内	費	目	品名	数量	単価	金額
		物 件 費						
		役 務 費						
		人 件 費			基職	(6)人		
					臨時	人		
				計		(6)		千円

- (注) 1 課題欄には、技術開発課題名に番号を付して記入する。  
 2 実施報告欄には、当該年度の開発成果を記入する。  
 3 備考欄には、開発成果の評価等について記入する。

# 技術開発実施報告・計画

様式 2

森林技術センター

課題	6 林分閉鎖時における生育段階の下層植生の変化と目的材生産の密度の解明		継続 新規	担当	森林技術 センター (業務第I係)	開発 箇所	楠見国有林 227ぬ林小班		
目的	照度不足による下層植生が消滅衰退に移行している林分について、照度を上げることによる下層植生の回復と林分密度との関連を解明する (主として保育間伐作業)		開発期間					平成7年度～平成16年度	
年度別実施経過		13年度実施報告			年度実施計画				
		実施内容	備考 (評価及び普及指導)		経費科目				
平成7年度 1, 試験地設定 2, 樹高・胸高径測定 3, 下層植生調査 4, 試験地の表示 5, 照度調査  平成10年度 1, 生長量調査(樹高・胸高径) 2, 下層植生調査		1, 試験地調査(生長量)7月・9月 人工数: 21.375人  2, 試験地管理(7月) 人工数: 3.500人 試験地までの歩道整備(草払)	1, 実施結果 試験地までの歩道の整備と草払いを実施した。 下層植生及び侵入樹種について (1)下層植生 チチミザサ・ツルコウジ・ハナイカダ・ヤブショウガ・ヨメナ・カラスウリ等 (2)侵入樹種 アオキ・タブノキ・モチノキ・ネズミモチ・ヤブニッケイ・イチイガシ・ヤマグワ・イヌビロ・イスノキ等 以上のことから、照度が上がり地床条件が良くなったことから、植生の侵入が発生したものと考えられる。		実 施 計 画				
				内 訳	品名	数量	単価	金額	
				物件費					
				役務費					
				人件費	基職	( )人			
					臨時	人			
				計		( )		千円	

(注) 1 課題欄には、技術開発課題名に番号を付して記入する。  
 2 実施報告欄には、当該年度の開発成果を記入する。  
 3 備考欄には、開発成果の評価等について記入する。





## 平成13年度実施内容

### 1 生長量調査

上木調査 (H13, 7.26と30)

ブット		直径(cm)	樹高(m)	材積(m <sup>3</sup> )
10%区	伐採前	22.5	15.3	0.30
	伐採後	23.6	15.6	0.33
	H10	25.3	16.7	0.40
	H13	26.8	18.1	0.48
20%区	伐採前	17.5	13.5	0.17
	伐採後	18.8	14.3	0.20
	H10	20.0	15.2	0.24
	H13	21.2	17.3	0.30
30%区	伐採前	17.1	14.0	0.16
	伐採後	19.1	15.4	0.22
	H10	20.6	15.1	0.25
	H13	21.9	16.6	0.31
40%区	伐採前	14.3	11.5	0.10
	伐採後	16.3	12.3	0.13
	H10	18.5	13.8	0.19
	H13	20.4	15.0	0.24
対照区	伐採前	15.4	11.3	0.11
	伐採後			
	H10	17.0	12.4	0.14
	H13	18.0	13.7	0.18

調査野帳別途保管

### 2, 実施内容

#### 1). 試験地調査

照度調査・生長量調査及び下層植生調査

人工数：21.375人

#### 2). 試験地管理

試験地までの歩道整備(草払)

人工数：3.500人

### 3, 照度調査 平成13年9月18日観測

各ブット内を定点を設け観測する：観測野帳は別途保管

(観測点：各10点, 現地に表示杭設置)

林外調査地点は仁多尾開拓ブット内道路

相対照度

ブット	伐採前	伐採後	H,10,8,4	H.13.9.18
10%区	7.75	9.22	5.44	3.85
20%区	12.06	42.53	1.00	0.35
30%区	11.42	16.74	0.95	0.34
40%区	8.30	98.07	2.00	0.28
対象区	3.64	-	0.56	4.22

### 考察

試験地までの歩道の整備と草払いを実施した。

下層植生及び侵入樹種について

#### (1)下層植生

チヂミザサ・ツルコウジ・ハナイカダ・ヤブショウガ・ヨメナ・カラスウリ等

#### (2)侵入樹種

アオキ・タブノキ・モチノキ・ネズミモチ・ヤブニッケイ・イチイガシ・ヤマグワ・イスノキ等

以上のことから、照度が上がり地床条件が良くなったことから、植生の侵入が発生したものと考えられる。

記載要領 1 調査結果及び考察を記入する。

2 状況写真は別途整理する。